

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック 2020

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標が達成できているかを評価できる評価規準が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。(※1)
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまずいている児童生徒たちへの)支援方法を準備し、実行することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の達成につながっていたか。

3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具(タブレットPC・ワークシート・具体物等)を工夫し用いていたか。
- 目標の達成につながるように児童生徒の考えを可視化(板書、ICT等を使って示すこと)できたか。(※2)

4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・口頭等)ことはできたか。

5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、 学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する(キャッチ&レスポンスする)ことができたか。
- 評価するための方法や場面を設定することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。(※3)

※1～3は、令和元年度達成率が低かった事項である。※1と※3は授業の根幹であるため、見通しと振り返りの時間を必ず設定することが不可欠である。※2は児童生徒が、自分の考えをもって話した結果をアウトプットし、考えを再構築することで深い学びにつなげる手立てである。

R01達成率	※1 小88%、中67%	※2 小54%、中34%	※3 小63%、中44%
R02目標値	※1 小中ともに90%	※2 小中ともに60%	※3 小中ともに70%

R01達成率の数値は、学校訪問で先生が自分の授業を評価したものである。